

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	224上・下水道の整備		
施策のねらい (めざす姿)	すべての市民が、良質で安定した水を利用しています。 下水道(汚水)が整備され、市民が衛生的な環境の中で生活しています。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	マネージャー氏名	萩原 勝

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	令和2年度の公営企業会計移行に向け計画的に事務を進める。 下水道施設について適切に維持管理を図るとともに、計画的に整備を促進する。	③改革・改善内容	ストックマネジメント計画に基づき下水道施設の点検調査を進める。また、生活環境の向上を図るため計画的な下水道の整備を促進する。
②①に基づく取り組み結果	令和2年度に公営企業会計に移行した。また、下水道施設を計画的かつ効率的に管理するため鎌ヶ谷市公共下水道施設ストックマネジメント計画の策定とともに、下水道使用可能区域を計画的に整備し拡大した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	公共下水道	意図(対象をどうするのか)	公共下水道の整備を進め市民にとって衛生的で快適な生活環境を確保する。
②施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道新設による供用開始区域の拡大 公共下水道施設の適正な維持管理 公共下水道事業の健全な経営 			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> 公営企業会計への移行により経営状況を明確化し計画的な経営を図る。 市民要望のある下水道事業を計画的に進め、下水道使用可能区域の拡大を進める。 			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	公営企業会計への移行により経営状況の明確化を図った。ストックマネジメント計画により下水道施設の調査点検方針を策定した。公共下水道(汚水)を整備したことにより普及率が約2%上昇した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	上水道普及率	%	76.7	76.7	調査中	上昇
	ii	下水道普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	%	66.1	67.1	68.0	68.0
	iii	下水道水洗化戸数	戸	28,694	29,056	29,385	29,300
③基本事業成果指標	i	上水道普及率	%	76.7	76.7	調査中	上昇
	ii	下水道普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	%	66.1	67.1	68.0	68.0
	iii	全県域汚水適性処理化構想見直し数	件	1	1	1	1
	iv	全体計画見直し等の実施数	件	0	0	0	1
	v	下水道管渠清掃延長	m	5,957	3,578	3,463	6,070
	vi						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)			令和3年度予算	
事業費(千円)	2,640,873	546,463	(単位:円) 4,994 円			482,900	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下水道施設の老朽化による維持管理費の増加とともに、公共下水道の普及に向け財源を確保し、計画的な下水道事業の経営の継続を図る。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	計画的に下水道の普及促進を図った結果、下水道普及率、水洗化戸数は達成した。全体計画の見直しについては、上位機関である千葉県と協議の上、令和3年度以降に実施する予定である。管渠清掃は清掃のほかカメラ調査を行い、管渠の機能確保を補完した。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	財源の確保とコストに留意し、下水道使用可能区域の拡大のため整備を進める。
③特に重点化する事務事業	下水道事業会計繰出金